
【第16回セミナー報告 アドバンスコース】

演習レポート

中学高校時代における運動部活動経験と年収

報告者 印鑰 真人

(珍☆苗字)

グループ名：珍☆苗字

メンバー：丸藤 祐子 国立健康・栄養研究所 (発表者)
：印鑰 真人 東海大学大学院体育学研究科 (報告者) (リーダー)
：東恩納玲代 名城大学人間健康学部 (書記)

【背景】

我が国において、運動部活動は盛んに行われており、正課外活動とはいえ教育的な意味も担っている。現在、中学生・高校生の運動部活動の所属は、それぞれ 73.9%と 49.0%である。運動部活動経験は、ライフスキル獲得に役立つという報告(上野, 2007)やライフスキル獲得を導く運動部活動経験は高校生の進路成熟に対して積極的な影響を及ぼす報告(上野, 2014)がなされている。また、海外における先行研究では、高校時代の課外活動の経験に関して運動系のクラブへの参加経験は学歴や賃金に有意に正の影響をもつという報告(Lleras, 2008)や高校時代に週1回チームスポーツに参加していた男性は成人時の時給が1.5%高く、管理職になる確率が2%高かった一方、女性は個人種目のスポーツに参加していた人ほど管理職になる確率や仕事の自律性が高いことが報告(Cabane and Clark, 2011)がなされている。

しかし、日本においては運動部活動経験がその後のキャリア形成にどのような影響を及ぼすかは検討されておらず、運動部活経験の新たな重要性を明らかにすることや海外の事例が日本でも当てはまるのかを判断する上でも、運動部活動経験とその後のキャリア形成の関連を研究する必要がある。

【目的】

本研究の目的は、中学及び高校時代の運動部活動経験と年収との関係を症例対照研究によって検討することである。

【方法】

1) 研究デザイン

一度でも年収が1,000万を超えた人の症例対照研究とする。

2) 対象者 (サンプリング/サンプルサイズ)

(1) サンプリング

東京都内にある企業10社の55歳から60歳の男性(計3,000名)を調査対象者として質問紙調査を行う。

～手順～

- ①東京都内にある企業 10 社の人事担当者に依頼
- ②質問紙作成 (A4 1 枚), 印刷
- ③著者らが直接, 人事担当者のもとに質問紙を届ける
- ④人事担当者が対象者に配布
- ⑤対象者は回答し, 人事担当者が回収・一時保管
- ⑥著者らが直接, 人事担当者のもとに回収に行く

(2) サンプルサイズ

日本における年収 1,000 万以上の者は 3%, 運動部活動所属率が中学生 73.9%, 高校生 49.0% であることから、曝露者の割合が症例群で 50%, 対照群で 20%と想定, 危険率を 5%, 検出力を 80%に設定し必要なサンプルサイズを算出した (表 1)。さらに, 本調査では, 約 10%程度の未回答者がいることを考慮し, 3,000 名を対象とすることとした。

表1

群1の属性ありの割合	0.5
群2の属性ありの割合	0.2
$Z_{1-\alpha} / 2$	1.96
$Z_{1-\beta} / 2$	0.84
必要なサンプルサイズ	2562.54

3) 曝露要因 / 介入内容

中学・高校時代の運動部活動経験の有無

4) 評価項目

生年月日, 最終学歴, 中学高校時代の部活動 (経験・種目・継続年数), 最高年収, 平均年収, 勤続年数, 住居形態, 役職名, 居住地域, 家族構成, 既往歴

5) 統計解析

ロジスティック回帰分析

6) 倫理的配慮

研究計画は東海大学研究倫理委員会の承認を経て実施する。

- ①無記名で行われるため個人が特定されることはない。
- ②調査用紙の回収をもって本研究への協力の同意とする。

【期待される効果・意義】

(1) 期待される効果

中学および高校時代に運動部活動経験のある者は, 経験のない者よりも一度でも年収 1000 万を超えたオッズ比が高い (図 1)。

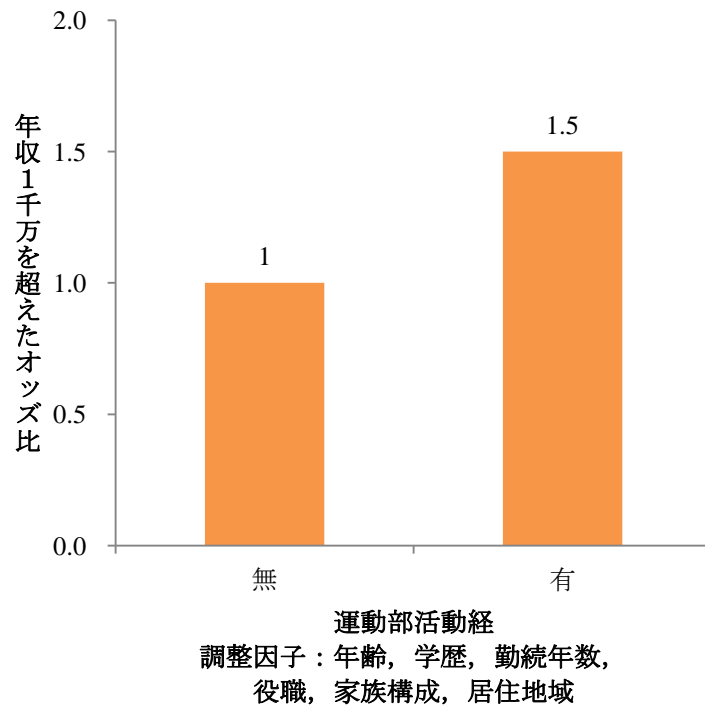


図 1

(2) 期待される意義

運動部活動経験の新たな面での重要性を示すことができる可能性がある。

【研究予算】

質問紙印刷費	3,000 枚×4 円	12,000 円
交通費	1,000×10 社×2 名×2 (往復)	40,000 円
データ入力費		200,000 円
論文投稿 (運動疫学研究)		無料
合計		252,000 円

【質疑応答】

- 運動部活動の経験の有無よりも役職や年齢が強く関連しているのではないかと？
⇒年齢や勤続年数などの効果をなくすために対象者の年齢を 55 歳から 60 歳とした。
- 昭和の世代ではほぼ運動部活に所属していたことが予想され、逆に近年はクラブチームなどに所属している者も多いが対象者の年齢背景は考慮したか？
⇒現在、運動部活動に所属している人たちの年収にどのような影響が出るのかを検討することを想定した。現在の運動部活動所属率が中学生 73.9%，高校生 49.0%であることから問題無いと考えた。

- ▶ コントロール群はどうするのか、対象者をより明確に設定すべきではないか？
⇒コントロール群は作らない想定でいたが、年収 1,000 万を超えたことのある人・ない人で 2 値化して対照群を作ることも可能だと考えられる、対象者に関しては同じ部署、近い年齢など考慮すべき点もあるが今回に関しては研究の課題と考えている。

【感想】

- ◆ 昨年に続いて参加することが出来、今年も良い経験になりました。講義の内容は昨年よりも理解を深めることが出来ました。また、学ぶ分野の違う方ともお話し、刺激をもらったり、昨年も来ていた方と再会して励まされたり、良い 3 日間になりました。

(印鑰真人)

- ◆ 今年も充実した 3 日間で、大変勉強になりました。講義もグループワークも新しく知ったことばかりで、今後の研究に役立つ経験となりました。これから自分の研究デザインを考えていく上で、今回のセミナーの経験を十分に発揮して、良い研究を進めていきたいと思います。

(丸藤祐子)

- ◆ 前回 (10 年ほど前ですが) 参加した時よりも理解を深めることができ、今後の研究を進める上で大変良い経験となりました。新しい知見得られ刺激を頂いたので、機会があればまた参加させていただきたいと思います。

(東恩納玲代)

【講師のコメント】

種田 行男 (中京大学工学部)

現在、私は中京大学体育会で会長を務めています。近年、大学においては体育会に所属する学生が減少する傾向にあります。本研究によって、身体活動の実施が身体的 QOL のみならず、経済的 QOL の向上にも関与することが証明されれば、中・高等学校での部活動や大学での体育会活動が飛躍的に活性化するものと思われま

す。本研究を実施する前に、以下の点について再検討してください。

1. 対象企業の選択基準として、会社の規模 (資本金や従業員数など) を定める必要があると思います。
2. 「中学校・高校時代の運動部活動経験」とは、「中学校 and 高校での経験」あるいは「中学校 or 高校での経験」でしょうか？
3. 調査項目に「大学での体育会活動」や「現在の身体活動状況」を加えて解析していただくことを希望します。